芸術市民といっしょに創る芸工大広報誌

g*g

［ジー・ジー］ 2009 SPRING VOL.9

東北芸術工科大学

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN

表紙のART

WEB

卒展プライズを受賞した「CYCLE Ambulance
―途・国を支援する為の移動体計画―」

一風変わった所付きの自転車。これは、卒展プライズ2008に輝いた生産デザイン学科（現・プロダクトデザイン学科）の野口剛さんの卒業制作。途上国への人道的支援の一環として、ケガ人や病人を乗せて走る救急自転車を、現地の材料で作り、使い、修理する、地産地消地産型で提案しています。試しに荷台に友人を乗せて芸工大の構内を疾走してみました。一生懸命ペダルをこいでいるのが野口さん。荷台の乗り心地もなかなかと。。現地の道路事情を考えると改良の余地はありそうですが、まずはその着眼点のやさしさは十分受賞に値するといえそうです。

「g*g」とは？

芸工大広報誌のタイトルは「g*g」。最初の「g」はズバリ芸工大のgであり、もう一つの「g」は芸術市民のg、文化的志向を持った人々のことを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き！このデザインがっこいい！音楽がきれい！こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民です。そんな芸術市民のみなさんと芸工大が、「＋」より強い「＊」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g*g」。親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。

東北芸術工科大学

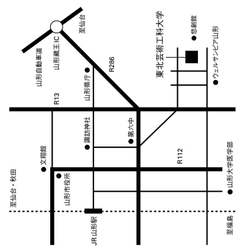
◎芸術学部
美術史・文化財保存修復学科
歴史遺産学科
美術科［総合美術／日本画／洋画／版画／彫刻／工芸（漆芸・陶芸・金工）／テキスタイル］

◎デザイン工学部
企画構想学科
プロダクトデザイン学科
建築・環境デザイン学科
グラフィックデザイン学科
映像学科

◎大学院芸術工学研究科
博士後期課程 芸術工学専攻
修士課程［芸術文化専攻／デザイン工学専攻／デザイン工学専攻 仙台スクール］

◎研究機関
総合研究センター／東北文化研究センター／文化財保存修復研究センター／こども芸術教育研究センター／デザイン哲学研究所／東アジア芸術文化研究所／社会芸術総合研究所

ACCESS

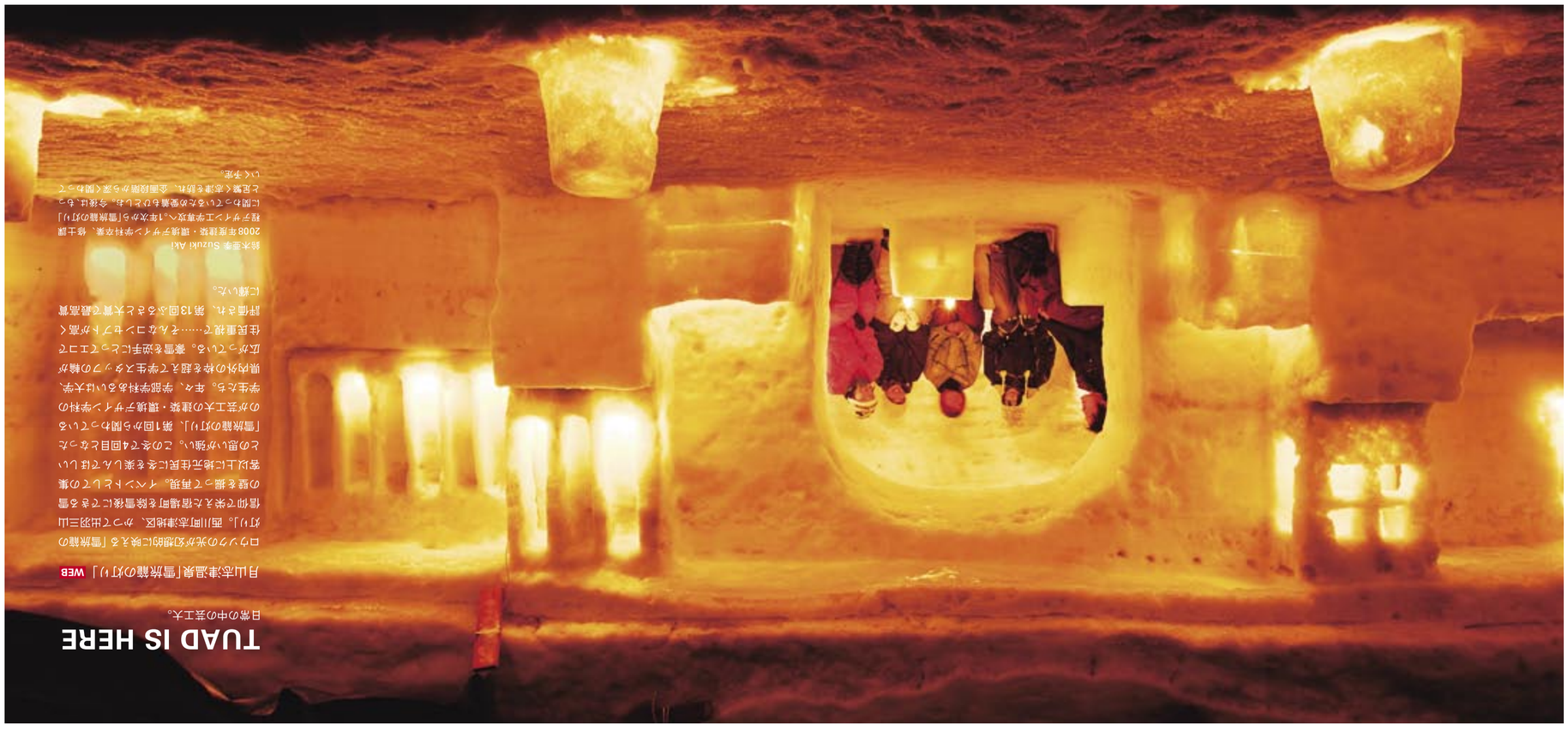


東北芸術工科大学広報誌 g*g

2009年4月10日発行
発行：学校法人東北芸術工科大学
〒990-9530 山形市上桜田3-4-5
東北芸術工科大学広報室
TEL：023-627-2246 FAX：023-627-2185
WEB：www.tuad.ac.jp
E-mail：hello-gg@aga.tuad.ac.jp

Design：Creative Room J1
Printing：Tamiya Printing co.,ltd.

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2009



TUAD IS HERE

日常の中の芸工大。

月山志津温泉「雪旅籠の灯り」 WEB

ロウソクの光が幻想的に映える「雪旅籠の灯り」。西川町志津地区、かつて出羽三山信仰で栄えた宿場町を除雪後にできる雪の壁を組んで再現。イベントとしての集客以上に地元住民に冬を楽しんで住してもらった思いが強い。この冬で4回目となった「雪旅籠の灯り」、第1回から関わっている芸工大の建築・環境デザイン学科の学生たち。年々、学部学科をいはず大学、県内外の枠を超えて学生スタッフの輪が広がっている。豪雪を逆手にとってエコで住民重視で……そんなコンセプトが高く評価され、第13回公益社団法人日本建築学会賞（業績）を受賞しました。

鈴木亜季 Suzuki Aki
2008年度建築・環境デザインデザイン学科卒業、修士課程デザインデザイン専攻へ。1年次から「雪旅籠の灯り」に関わっているとの愛着もひとしお。今後は、もっと国際く志津を訪れ、全国段階から深く関わっていく予定。

INNOVATION 2009

2009年度、東北芸術工科大学は新しい学科・コースを設置し、より身近な大学としてスタートを切りました。

デザイン工学部の新たな学科、芸術学部美術科の新たなコースの誕生を機に、教授陣もいっそう充実。
クリエイティブシーンの第一人者が学生の指導にあたります。
デザイン工学部の5名の学科長からそれぞれの新ビジョンを伝えさせていただきます。

企画構想学科

学生にとって、人生最良の分岐点となる4年間にしてあげたい。

小山薫堂教授［放送作家／脚本家］

社会のいろんな場面で求められる企画力。企画構想学科では、それらすべての場面に通用する人材を育てたいと考えています。「30歳くらいになったとき、この学科で学んだから今の自分がある」と思ってもらえるような、学生たちのその後の人生を幸せな方へと、方向付けてあげられる学科。私自身が入りたいと思う学科を創っていこうと考えています。市街地を臨む丘の上の大学、学習しやすい環境のもと、大学での4年間で自分の人生を企画して欲しいです。最初の1年間となる今年は、学生のみなさんをアイデア体質に変えていくことが目標。考える楽しさ、いいアイデアを思いついたときの幸せな気分を味わって、その感覚を身に付けてほしいです。大学の科目だけが授業とは考えていません。プライベートのできごとでも人生にとって欠かせない内容なら、評価として考慮するだけの柔軟性は、持ち合わせているつもりです。

●こやまくんどう　1964年生まれ。熊本県出身。放送作家、脚本家。脚本を手がけた映画「おくりびと」は第81回米アカデミー賞で外国語映画賞部門賞を受賞したほか、主要映画賞を多数受賞。

映像学科

映像で何かを表現した い欲求と、何かを探す体力のある 学生を待っている。

根岸吉太郎教授［映画監督］

若い人に向き合って教えるのは初めての経験なので、様子を見ながら新しい試みをどんどん取り入れていこうと思っています。芸工大を初めて訪れた時から一貫して、モノを生み出すチカラをこの場所が内包していると感じていたので、それを自分の中でもチカラにして次に進みたいと考えています。今の学生は生まれたときから家の中でも外でも押し寄せるさまざまな映像にさらされてきた世代。だから最初にやろうと思っていることは、学生に選りすぐった映像、「驚き」のある映像をたくさん見せてあげること。それをきっかけとして、自分がどんな映像を創りたいのか、気づいたり思い立ったりしてくれることが一番。そこで初めて、この場所が意味を持つし、首都圏から離れた距離感が味方にもなります。あとは映像を生み出す欲求と体力があればいい、と思っています。

●ねぎしきちたろう　1950年生まれ。東京都出身。映画監督。「遙雷」「雪に願うこと」「サイドカーに犬」など作品多数。今秋、新作の「ヴィヨンの妻」が公開予定。

建築・環境デザイン学科

自然、歴史、人に恵まれた山形で環境先進県を目指そう。

竹内昌義教授［建築家］

建築・環境デザイン学科の守備範囲は、建築から地球環境までさまざま。とりわけ、環境問題により真剣に取り組まなければならない今、ここ山形で何ができるかという点に力点を置いています。大学と一緒に環境問題に全面的に取り組んでいくことで、自然が豊かで歴史もあって、人々が町づくりに熱心な山形なら、きっと「環境先進県」になれるはずです。もちろん、建築、インテリア、町づくり、ランドスケープなど専門分野で活躍するのもよし。また、地球環境のことを考えながら社会のさまざまな場で活躍することもできます。学生たち自身が、手を動かす、「蔵プロジェクト」や「山形R不動産」といった地域と一緒に建物の再生を考える取り組みも特徴。今後ますます重要視される環境問題ですから、学生たちの活躍の場は広がる方向にあると思います。

●たけうちまさよし　1962年生まれ。神奈川県出身。建築家。共同代表の建築設計事務所「みかんぐみ」は愛知万博のパビリオン「トヨタグループ館」をはじめ、住宅や小学校、大規模複合施設まで実績は幅広い。

グラフィックデザイン学科

ありがとう、と心から言えること。たくさん旅をすること。

中山ダイスケ教授［現代美術家／アートディレクター］

ポスターやCDジャケットをデザインしたいという憧れだけでは、変化の激しい時代のグラフィックデザインはできません。一見華やかに見えるグラフィックデザインの本質は、何のために何を伝えたいのか？ 世の中や人のために何ができるのか？ という感情を含んだコミュニケーション行為です。だから学生にはクリエーション以前の姿勢として、きちんと挨拶ができるか、人の目を見て話せるか、ありがとうと心から言えるかなど、日頃からのコミュニケーション能力も問われるのです。教員スタッフは皆そういった関わりを大切にしているクリエーター達。作品の評価についても、表面的な出来映えではなく、何よりもその伝えたい気持ちを含んだ制作プロセスを重要視しています。気持ちの幅を広げるために、本学科では「旅をしなさい」と強く勧めているんです。さまざまな場所で多くの人に出会い、体験と体感を通して言葉を発することのできる強くてしなやかな学生を育てたいですね。

●なかやまだいすけ　1968年生まれ。香川県出身。地下鉄副都心線東新宿駅の巨大レリーフなど、立体から平面作品、舞台美術までを多彩に手掛ける、現代美術家でありアートディレクター。

プロダクトデザイン学科

より大事に育てていきたいのは、優しさと人間力ですね。

上原勲准教授［プロダクトデザイナー］

私たちの周りの、あらゆる製品や空間をデザインする、それがプロダクトデザインです。産学連携プロジェクトなどを通じて、技術や感性を磨いてきたこれまでの学科の伝統を踏襲しながら、今年度は更に、「人間力」を強化していきたいと考えています。デザインをするということは、問題提起されたものを解決して、カタチにしていくこと。たくさんの課題にもまれることで学生たちはプロデザイナーの世界の厳しさを知り、もがいて脱皮、成長し、柔軟な頭脳とハート、そして人を思いやる優しさを体得していきます。その実体験を通して、デザイナーとしてだけではなく、社会人としても鍛えられているのです。さらに、自分を相手に伝えるという作業、言葉だったり、態度だったり、作品だったり、そこもしっかり身に付けてほしいと思います。大学4年間はアッという間。就職して、社会で勝負できる人間力が肝心です。

●うえはらいさお　1964年生まれ。東京都出身。バイクや自動車のスタイリングをはじめ、さまざまな領域をこなすプロダクトデザイナー。

芸術学部に設置する新しい3コース

附置機関との連携を強めながら、人材育成・教育環境の一層の充実を図るとともに、新しく「美術科総合美術コース」「美術科版画コース」「美術科テキスタイルコース」が誕生します。「美術科総合美術コース」は文化意識の向上や、芸術とふれあう機会を積極的に地域へ提供していきます。

美術科 総合美術コース NEW

何かを創り出すことが好きな、全ての人に開かれたコースです。「芸術とは何か」という原点から、新しい芸術表現の可能性への挑戦と、社会の文化的向上につながる活動を企画、実践していく能力を身につけます。

美術科 版画コース NEW

描画や彫りなど「版」との試行錯誤を繰り返し、心を込めて刷り上げることで、白い紙が一瞬に作品へと生まれ変わる版画。幅広い技を持つ教授陣とともに、銅版画、木版画、スクリーン版画などの「版」表現を探求します。

美術科 テキスタイルコース NEW

「織物」や「染物」など、用途で表情を変えるテキスタイルは、衣類やインテリア、アートとして暮しを豊かにしてくれます。山形の伝統的な「紅花」染めにも着目し、新しい技術を取り入れながら、表現力を高めます。

デザイン工学部に設置する新しい3学科

放送作家の小山薫堂氏を教授に迎えた新しい学科「企画構想学科」のほか、映画監督の根岸吉太郎氏を教授に迎える「映像学科」、「グラフィックデザイン学科」が誕生します。企業ブランドや映画産業に繋がる分野の強化で、東北・山形における産業の活性化にも寄与できると考えています。

企画構想学科 NEW

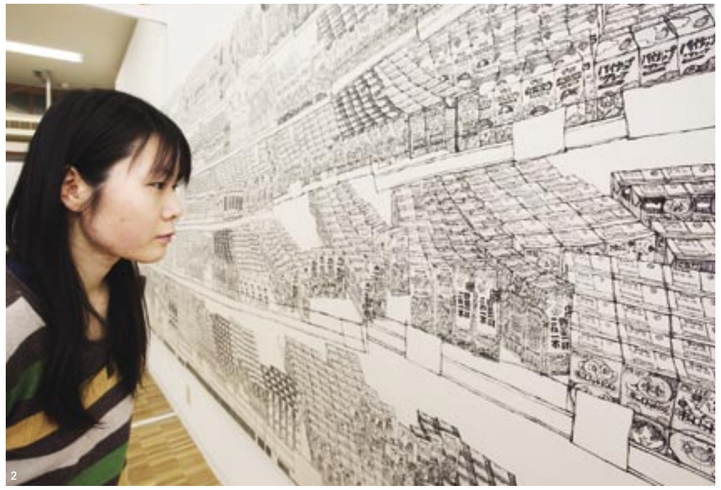
「ブランド」を生み出す「企画力」を身につけ、人を幸せにする術を磨くことがテーマ。価値を再発見し、魅力の引き出し方や表現方法、コミュニケーションや感性といった、企画や編集、広報などに求められる方法を実例から習得します。

グラフィックデザイン学科 NEW

デザイン表現で状況にしなやかに対応し、未来を切り開けるクリエイターの育成を目指します。ポスターやパッケージデザインのほか、高齢化社会に必要な情報提供のあり方など、新しい分野へも社会と関わりながら実践的に取り組みます。

映像学科 NEW

音、色、ストーリーなどを組み合わせて、イメージやメッセージを相手に伝える映像制作。映画やアニメ、CG、CM、写真など、さまざまな映像表現の世界を学んでいきます。映画祭や映画館と連携し、大学を超えた活動も特徴のひとつです。



PICK UP

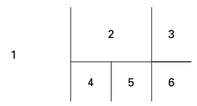
つぎへの、静かな闘志と覚悟。

例年になく穏やかな気候となった2月、「COLOR OF TUAD」をテーマに
2008年度 卒業／修了研究・制作展が開催された。約500名の卒業・修了生たちは、学び、創造し、
追究の場としてきた広大なキャンパスに自らのアートとデザインの集大成により「色」を射した。
卒展をひとつのきっかけとして、それぞれが次なる高みへと歩みを進めていった。

2月11日から15日までの5日間、東北芸術工科大学では2008年度 卒業／修了研究・制作展を開催しました。美術作品、デザイン提案、研究報告など、広大なキャンパス内会場に出品した卒業生は488名にもおよびます。今回の卒展テーマは「COLOR OF TUAD」。卒業後の社会を無限の可能性を秘めた白いキャンバスとするなら、この卒展はバレットのような舞台。それぞれの創作や、研究活動の成果発表の場として自らの「色」に染め上げました。

卒展初日、映画「おくりびと」の脚本家である小山薫堂教授も参加とあって「卒展開催記念パネルディスカッション」は大盛況。それに先立って行われた「卒展プライズ2008公開講評会」では、受賞学生本人が登場し、作品のコンセプト解説や喜びを語るといった初めての試みが行われ、会場は今までにない心地よい緊張感と歓喜に包まれました。今回の審査員は、後藤繁雄氏（クリエイティブディレクター）、酒井忠康大学院教授、松本哲男学長、宮島達男副学長、山田修市芸術学部長、赤坂憲雄大学院長。6氏が会場を回り、ノミネート作品の中から卒展プライズ2008を決定しました。総評としては、卒展全体のお祭り的な賑わいがなりを潜め、静かながら個々の展示はクオリティがアップしていると高評価。受賞に至らなかった学生の可能性にも触れ、自信を胸に旅立つよう激励しました。 WEB

2008年度の卒展プライズを受賞した会場・作品を一挙ご紹介。1：特別賞としてバビリオン賞を受賞した「東アジア民族文化アーカイブ研究センター」内グラフィックデザインコースの展示会場。本館から離れた会場ながら大勢の来場者で賑わっていた。2：『Super Market ―evident―』佐々木綾子（大学院芸術文化専攻日本画領域）3：『死神』氏家正貴（情報デザイン学科映像計画コース）4：『浪』矢萩誉人（美術科工芸コース）5：『現在』山本雄大（美術科彫刻コース）6：『CYCLE Ambulance ―途上国を支援する為の移動体デザイン計画―』野口剛（生産デザイン学科／現・プロダクトデザイン学科）



A.A.Tへの選抜はあるか？テーマは卒展から、それぞれの今後へ。

後藤繁雄　Goto Shigeo
1954年大阪府生まれ。編集者、クリエイティブディレクター、京都造形芸術大学教授。企画・商品開発から広告制作、web開発、展覧会企画など、ジャンルにとらわれない幅広い活躍ぶり。

卒展の開幕前夜、編集者・クリエイティブディレクターの後藤繁雄氏をレヴュアーに迎え、「ART AWARD TOKYO マラソンレヴュー・イン・ヤマガタ」を行いました。若手アーティストの発掘・育成を目的とした展覧会「ART AWARD TOKYO」の審査員を務める後藤氏は、日本の主要な美術大学の卒業制作展へ足を運び、作品・作家を選抜しています。1日かけて会場を回った後藤氏は、独自の視点で気になる作品をピックアップし、評価とアドバイスを送りました。この中で後藤氏は、自分が良いと評価すると、世の中的に認められてしまう怖さ、評価する側の責任について自身の考えを展開。最後に「芸工大へは、大都市圏の美大にはない期待感があるから、はるばる見に来るんです」と、卒業生だけでなく、在学生にとっても刺激となる言葉をいただきました。

左から／宮島達男副学長、小山薫堂企画構想学科長、酒井忠康大学院教授、赤坂憲雄大学院長。

卒展開催記念
パネルディスカッション

失敗から学んだ努力が成功への糧となる。

今年のディスカッションのテーマは、「〈大学〉以後ーいかにしてサバイバル社会を生き抜くか」という現代の社会情勢を反映した、シビアなテーマ設定。小山薫堂＋酒井忠康＋赤坂憲雄＋宮島達男、経験・実績ともに豊富なパネラーのみなさんが、自らの体験談を交えて社会へとこぎ出す若者たちに勇気と希望と、ちょっとしたコツを伝授してくれました。学生起業の失敗、失恋、受験の失敗……と、現在の活躍ぶりからは想像に難い4者4様の体験談を披露。「失敗から学ばずして突っ走ると大ケガをする。だから、失敗はいいものだ」と失敗のススメ。もちろん、失敗したままでは終わらないための心の入れ替えやその後の努力は不可欠。厳しい時代だからこそ、このタイミングで社会に出る卒業生には、飛びきりあったかい、力強い言葉を届けたいものです。小山教授や酒井教授のユニークなメッセージをも総括するように、赤坂教授が力強い口調で語った「社会に出て戦って戦って煮詰まったら、本学に帰ってきなさい。答えはきっとここにあります。」という言葉、多くの人の心に響いたのではないでしょうか。

学科・コース主催のイベントも多彩に盛況でした。

〈グラフィックデザインコース〉
現役デザイナーによるトークセッション

ともにアートディレクターであり、デザイナーとしても第一線で活躍中の水野学氏と菊地敦己氏をゲストに、中山教授を交えて軽快なトークで盛り上がった1時間半。テーマは「デザインができること」。仕事の流れやクライアントとの関わり方、アイデア捻出法など、臨場感あふれる話題に会場全体が興味津々に聞き入りました。「アートディレクターの条件は話が上手いこと」ということでしたが、十分納得のいくトークセッションでした。 WEB

〈生産デザイン学科〉
卒業生クリエイターによるトークセッション

東芝のデザインセンターで携帯電話やテレビを手掛ける鈴木毅さんとアクセサリーメーカーでデザイナーとして活躍中の原口直子さん。2人の卒業生を迎え、上原准教授を交えてのトークセッション。現在の仕事の話や在学中の思い出話に花を咲かせました。後輩たちの卒業制作の中からそれぞれのベスト3をチョイス＆コメント。先輩OB、OGの凛々しさがとてもまぶしく感じられました。 WEB

〈デザイン哲学研究所〉
今、求められているモノ・コトづくりとは

「人と環境にやさしい事業創出にチャンスがある。エコ、ユニバーサル、サスティナブルの視点でビジネスをデザインする」という副題で本学の植松豊行教授が講演。「グッドデザイン賞」の理事でもある植松先生によるビジネスに直結するテーマとあって、一般や企業の方の参加が目立ちました。歴史に学び、今後のモノづくりの在り方を提言。参加者は多くのヒントを得られたのではないでしょうか。

PICK UP

WEB マークがついている部分は、http://gs.tuad.ac.jp/gg/ にて詳細をご覧いただけます。

TUAD NEWS 31

目で見る芸工大「できこと」セレクション

01

日本映画初の快挙は山形づくし！ 小山薫堂氏脚本「おくりびと」が アカデミー賞外国語映画賞部門賞受賞！

企画構想学科学科長の小山薫堂教授が脚本を手がけた映画「おくりびと」（英語名：Departures）が、アメリカ映画界最大の映画賞である、第81回アカデミー賞の外国語映画部門賞（Foreign Language Film）を受賞しました。
小山教授は、「これまでサプライズ＆ハピネスを信条として働いてきましたが、今回は自分にとって最高のサプライズ＆ハピネスとなりました。今年の4月に東北芸術工科大学へ入学してくる新しい企画構想学科の学生とも、今回のように新しいものを生み出して、そこで得られる喜びを共有していきたいと思っています。4月に皆さんに会えることを、とても楽しみにしています。」とその感動を語りました。小山薫堂教授は、第32回日本アカデミー賞で「優秀脚本賞」を受賞したほか、第60回読売文学賞「戯曲・シナリオ賞」を受賞しています。

02

本学芸術学部美術科新体制への節目 「17years 洋画コースの歩み」展

2009年度、洋画コースは、洋画と版画の2コース体制となり、これからの時代により強く魅力的なコースとして新たなスタートを切ります。これまでを俯瞰し次への展開を見据えるため、卒業生による作品展を2月23日－28日に東京の銀座東和ギャラリーにて開催。総勢56名の作家が出品しました。
WEB：http://www.ginzatowagallery.com/

03

大川さん「Foto Premio 2009」に選出 今月の入賞作品の展示に乞うご期待

美術科洋画コース2年の大川孝さんがコニカミノルタ主催の、39歳以下の若手写真家を支援するプログラム「Foto Premio 2009 第一期」に入賞。東京のコニカミノルタプラザにて展示されます。この賞は、毎年4回の募集期から年間12～18名を選出し、写真展を開催し、その中から、大賞1名、特別賞2名が年度賞として選出されるもの。
日時：4月21日（火）－30日（木）
10:30－19:00（最終日15:00まで）
会場：コニカミノルタプラザ（東京都新宿区新宿）
主催：コニカミノルタ
WEB：http://konicaminolta.jp/plaza/

04

TUAD Artist in Residence Program 2008「梶井照陰｜四ヶ村」で廃校に元気

2008年春、過疎化の進む村々を取材した「限界集落－Marginal Village」（フォイル刊）を発表した佐渡在住の写真家・梶井照陰が、本学のアーティスト・イン・レジデンス・プログラムとして、2008年夏から秋にかけて山形県大蔵村の四ヶ村に滞在し、2009年3月に閉校を迎える学校の年中行事を軸に、村の祭礼や古老たちの生活を撮影。その報告展として、撮影した写真約70点を展示した「梶井照陰｜四ヶ村」を1月20日－30日に開催しました。初日には梶井照陰氏によるギャラリートークも開催。何気ない山形の里山の姿を、改めて考え直す機会となりました。

05

教育にも市街地の活性化にも貢献！ 「山形R不動産リミテッド」サイトを公開

馬場正尊建築・環境デザイン学科准教授が指導し、実験的に行っている「山形R不動産リミテッド」。2008年12月にご案内した「山形R不動産リミテッド」のサイトを、2月1日に公開いたしました。不動産仲介は行わず、中心市街地の建物に対する使い方やデザイン、及びライフスタイルを提案することを主な目的としているサイト。実践的な教育の一環として位置づけています。

06

照明デザインを実践的に体験できた！ 学生が結婚式場の照明改修計画に参加

プロダクトデザイン学科の4年生3名が天童市のアンジェリーナ（結婚式場）の照明改修計画に参加。2008年2月に同学科の谷教授へ話があり、照明デザインの実務経験として、学生へ参加を募り、二宮知絵美さん、細谷将右さん、吉永伸かりさんの3名で取り組んだもの。チャペルのステンドグラスをライトアップすることと外階段の照明を実施し、2008年12月に竣工。谷教授が主にデザイン設計を行い、学生は現場調査やプレゼン資料の作成を行いました。

07

卒業生のさらなる成長に出会う喜び 第6回となる「SAKURAMASU2009」

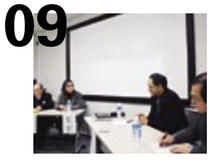
今年で6回目を迎える、本学卒業生のクリエイター達の凱旋企画作品展を3月7日－29日に山形デザインハウスで開催。今年は、再び山形の地に降り立った54名の作家が参加しました。

08

仙台から益々ラクラク通学圏 大学経由の高速バス上山～仙台線増便

山交バスと宮城交通で運行されている高速バス「仙台～上山線」は、2008年4月から「芸術工科大学前」を経由して運行しており、乗り換え不要で、仙台駅前から大学前までの通学が可能となっています。そしてこの4月に、大学からの要望などを受け、1時限目の授業に間に合う「仙台駅前発7:30 → 芸工大前8:33着」が増便されることになりました。仙台駅前からの通学がさらに便利になります。

09



議論充実、本学デザイン哲学研究所 シンポジウム「デザインと人間・環境」

デザイン哲学研究所主宰でのシンポジウムを2月21日に大学院仙台スクールで開催しました。インダストリアルデザイナーの荒井利春先生をお招きしての基調講演と、デザイン哲学研究所所長の岡田真宏教授、植松豊行教授、ほか研究員によるパネルディスカッションの2部構成で、明日のデザインに向けて実践的かつ創造的な議論を行いました。
※文部科学省ORC整備事業の一環です。

10

文化遺産防災フォーラム in 東京2009 「文化遺産防災のこれまで・これから」

文化遺産の災害時保全や防災活動に関して、政府（文化庁）のみならず各地の自治体等や組織で積極的な取り組みを踏まえ、多様な災害に備えるため、文化遺産防災の全国的なネットワーク形成を検討するフォーラムを、3月6日に東北芸術工科大学東京サテライトキャンパスで開催しました。第3回目の今回は、8名の専門家・経験者の方々に講演をお願いし、災害の本質、防災対策・防災教育、レスキュー・保全、保存修復など様々な問題に対して聴講者のみなさんと活発に議論。協力の輪を構築するとで文化遺産の防災へ大きな一歩を踏み出す足がかりとしました。

11

2年生にして入賞の栄誉、今後の自信に！ 野呂光平さん、審査員特別賞を受賞

建築・環境デザイン学科2年の野呂光平さんが、宮城県大崎市の感覚ミュージアムが主催するアートコンペ「第4回 1000の小箱展」で審査員特別賞を受賞。1月17日－3月15日まで、感覚ミュージアムで展示されました。野呂さんから「大変貴重な経験をさせていただきました。多くの方々のおかげです。今後とも努力、根気、勇気でがんばります。」とコメントをいただきました。
審査委員：審査員長 六角鬼丈（建築家 東京藝術大学建築科教授）／赤沼潔（美術家 東京藝術大学工芸科准教授）／石田智子（ファイバーアーティスト）
WEB：http://www.kankaku.org/

12

人生設計にも役立つ住宅の本、 馬場准教授『「新しい郊外」の家』出版

馬場正尊建築・環境デザイン学科准教授が、房総での自宅の建築を通して浮き彫りとなった日本の住宅問題、都市と郊外、働くことと生きることなどを綴った本『「新しい郊外」の家』を出版。都会の中で自分の人生を設計し直そうとする全ての人に捧げる1冊です。
発売日：2009年1月14日（定価1480円＋税）
編集：雪竹雅信
アートディレクション：グルーヴィジョンズ
出版：太田出版

13

「女性に機会を与える賞」クラブ賞 夢へと邁進する上で大きなパワーに

情報デザイン学科未来デザイン学系情報計画コース4年の佐竹莉奈さんが、自分の描いた夢や職業のために努力していることなどが評価され、国際ソロプチミスト山形の「女性に機会を与える賞」クラブ賞を受賞。2008年12月19日に山形グランドホテルで授賞式が行われました。

14

展示もトークも芸工大を強烈アピール 卒業・修了研究／制作展［東京展］

2008年度卒業・修了研究／制作展の東京展を3月26日－4月3日に開催しました。山形に出品された作品のうち、美術科の選抜作品を一堂に展示。また、初日には宮島達男副学長と東京オペラシティアートギャラリー キュレーターの飯田志保子氏によるギャラリートークも開催。多くの方にご来場頂きました。

15

日・韓・中の文化交流、平成20年度 東アジア藝術文化研究所シンポジウム

日本・韓国・中国の民族文化のなかから、色彩をめぐる多様な習俗や文学・藝術、歴史や風土を掘り起こし、東アジアに生きる歴史・文化的なアイデンティティの構築を目指すシンポジウム「東アジアの色彩文化―日本・韓国・中国―」を2月1日に開催。東アジア藝術文化研究所のシンポジウムは、初回をソウルの弘益大学で開催。第2回目を、京都造形芸術大学にて開催し、今回は第3回目。韓国からの先生もお招きし、私たちの文化を改めて深く見直す機会となりました。

16

平成20年度東北芸術工科大学学長 奨励賞受賞決定！ ますますの飛躍期待

全国大会等で優秀な成績を収めたり、社会的に貢献し、顕著な社会活動を行ったなどの秀でた学生または団体を表彰する学長奨励賞。応募された個人または団体の中から、審査会で審査した結果、受賞者が決定し、3月10日に授賞式（学長奨励賞及び奨励金 個人5万円 団体10万円）を行いました。
個人の部（5名）：泉川健二（修士2年）文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員会推薦／大川孝（美術科3年）コニカミノルタフォト・プレミオ2009／小野寺奈南（修士2年）国際漆展・石川2009奨励賞等／野瀬昌樹（美術科4年）日本版画協会展B部門賞候補等／乗田朋子（修士2年）AsiaHotShotsBerlin2009招待作品等
団体の部（1団体）：Link（代表：堤壮道）海外デザインメッセ出展、東京デザイナーズウィークなど

17

「第1回 Be 絵本大賞」にて大賞受賞 栄えある初代大賞作5月5日に出版

フジテレビKIDS、BSフジ、ポニーキャニオン、扶桑社が創設した絵本コンペ「Be 絵本大賞」。その栄えある第1回大賞に、情報デザイン学科グラフィックデザインコース4年の佐藤友里衣さんの作品「BOOK BIRD」が受賞しました。イラストとストーリーともに佐藤さんのオリジナルで、主人公の体が本の形をしているブックバードと、まわりの町の人たちとの出来事をつづった物語。5月5日こどもの日に扶桑社より出版されます。
「第1回 Be 絵本大賞」
アドバイザー：谷川俊太郎氏
選考委員：秋元康氏／茂木健一郎氏／武田双雲氏 他
WEB：http://be-ehon.fujitvkidsclub.jp/

18

膨大な公募作品の中から2人入賞 「第31回東京ビデオフェスティバル」

日本ビクター（株）が主催する国際的なイベント、「第31回東京ビデオフェスティバル（TVF2009）」に、乗田朋子さんの作品「はじまりはまつ毛の先から」と、市川悠輔さんの作品「るり子ときどし」が佳作として入賞。これは、「誰もが参加できるオープンイベント」として、ビデオカメラで撮影した20分以内の作品を広く公募し、世界107の国と地域から多くの作品が寄せられるもの。審査委員に映画監督の大林宣彦氏、アニメーション映画監督の高畑勲氏、作家の椎名誠氏ら6人が務めています。入賞作品は以下のページで視聴可能。
WEB：http://www.jvc-victor.co.jp/tvf/

19

本学卒業生も活躍、アジア発信の デジタルアートコンテストに入賞

元映像学科助手で本学卒業生の小林和彦さんの作品「朱ノ交」がアジアデジタルアート大賞カテゴリーAの静止画部門に入賞しました。この賞は、アジアから世界へ向けた知の発信とデジタルアート、デザインの普及啓発を目的としたコンテストです。
WEB：http://adaa.jp/2008/j/12_list.html

20

大学と学生たちの近況と直結、 芸工大ブログセンターを公開しました

東北芸術工科大学に関連するブログと、最新記事を一覧できるブログのポータルサイト「芸工大ブログセンター：TUAD BLOG CENTER」を公開しました。今後、大学の新しいブログができ次第、順次こちらに追加していきます。
WEB：http://www.tuad.ac.jp/blogcenter/

21

白田さんの受賞作品に注目！ 「学生国際ショートムービー映画祭」

2008年11月28日に開催された、第4回学生国際ショートムービー映画祭 in 関空で、映像コース（現 映像学科）2年の白田明日香さんのアニメーション作品「ペペル・ペペル」が演出賞を受賞しました。
WEB：http://www.osaka-unicon.org/

22

坂東准教授デザインのマークとロゴ 「東京TDC賞2009」で入選。

国内外で活躍するデザイナーが応募する、優れたグラフィックデザインを表彰する「東京TDC賞2009」。今年は、3,316点の作品が寄せられた中、坂東慶一グラフィックデザイン学科准教授デザインによる本学の「TUAD OPEN CAMPUS 2008」のマークとロゴが入選しました。
WEB：http://www.tdctokyo.org/

23

J1昇格を地域活性化に波及せよ！ モンテと共にJ1元気プロジェクト始動

モンティディオ山形がJ1昇格を決め、それを好機と捉え地域経済活性化の方策や具体的なアクションプログラムを実行するJ1元気プロジェクトを発足。発足を記念し、平林千春企画構想学科教授を座長とし、地域密着型の経営手法で観客動員数を国内トップレベルまで押し上げたアルビレックス新潟の池田会長を招き、記念講演と“J1元気プロジェクト”設立会議を3月3日に山形県総合運動公園総合体育館で開催しました。

24

学部の枠越えで技術と感性のコラボ 山形と東京で開催、66名の指輪

プロダクトデザイン学科と美術科工芸コースの共催で、「指輪（リング）展」を2月20日－3月2日に山形デザインハウスで開催しました。デザイン工学部、芸術学部の枠組みをこえ、金工、陶芸、テキスタイルの技術を活かしたものや、プロダクトの知識を活かしたものなど、若い感性を活かした他では見ることができない夢のある「リング」を発表しました。また巡回展として、3月10日－19日に本学東京事務所でも開催しました。

25

国立韓国伝統文化学校×本学の 交流記念「マウムと心展」を韓国で開催

本学日本画コースの教員と卒業生、期待の日本画家6名による作品展を、3月2日－29日に韓国の国立扶餘博物館（Buyeo National Museum）にて開催。日本美術院に所属し、日本の伝統を大切にしながらも、様式にとらわれず自分の感動に誠実な表現を試みた新作を含む日本画36点を出品しました。
出品者：番場三雄准教授／谷善徳講師／中井香奈子／高橋誠／桑原武史／鬼塚堅太

26

家族への思いを表現、能登さん初の 映像作品でNHKのデジタスに入選

グラフィックコース（現 グラフィックデザイン学科）1年の能登みさとの作品「いも」が、デジタルアートと呼ばれる新しい表現を一般の視聴者から公募し、放送で紹介していくNHK BS2の番組「デジタルスタジアム」2月13日放映分で紹介。学科でのいろいろな授業をヒントに制作した初めての映像作品で、クリエイティブディレクターの箭内道彦ベストレセクションに選ばれました。
WEB：http://www.nhk.or.jp/digista/

27

県花紅花をテーマにいきいきと開催 紅花ルネサンス vol.1 山形→未来

2009年度より新設するテキスタイルコース生徒で、紅花を通じて山形やテキスタイルの未来を考える、「紅花」のシンポジウムとワークショップを2月4日に開催しました。当日は、染織研究家の吉岡幸雄氏などをお招きしての紅花の染織ワークショップを、本学グラウンドで開催した後、会場を本館に移してシンポジウムを開催。多くの方にご参加いただきました。
企画：辻けい美術科テキスタイルコース教授＋山崎和樹同コース准教授
講演：吉岡幸雄（染織研究家・染司よしおか当主）／山岸幸一（染織家・日本工芸会正会員）／石山信哉（産地直売所たかせ代表）／遠藤みよ（産地直売所たかせ）／大内理加（山形県議会議員・山形県紅花生産組合連合会顧問）／赤坂憲雄（本学大学院長・東北文化研究センター所長）

28

日本と台湾の 文化交流の一翼を担って 日本画コース学生の 作品が優秀賞受賞

「日台文化交流青少年スカラシップ」で986点の作品の中から、本学美術科日本画コース4年の永田恭子さんが絵画部門で優秀賞を受賞。3月24日に台北駐日經濟文化代表處で表彰式が行われました。

29

仙山線宝さがし展 '08 ーここに見える、仙山線の宝。

一つの自然や文化として語られることが少なく、本当の魅力が見えにくい仙山線。その仙山線にまつわる大切な思い出を宝として募集し、一人ひとりの想いから仙山線の本当の魅力を探る報告展を、3月8日－13日に山形で、3月15日－17日に仙台で、山下英一企画構想学科准教授が中心となっている、「NPO法人宝さがしから地域デザインを考える会」が主催で開催しました。

30

現代平面作家の登竜門 「VOCA展2009」に卒業生が出品

上野の森美術館が主催する平面作品の展覧会VOCA（Vision Of Contemporary Art）展。現代の平面作家の登竜門と言える展覧会に、洋画コース卒業生の池谷保さんが選出。「VOCA展2009 現代美術の展望－新しい平面の作家たち－」として、3月15日－3月30日に上野の森美術館で展示されました。また、この4月より就任した三瀬夏之介美術科准教授がVOCA賞を受賞しました。

31

西澤高男准教授が手掛けた住宅が コンテスト受賞と雑誌掲載のW朗報

西澤高男プロダクトデザイン学科准教授が手掛けた古い農家を積層木材（LVL）で増築した住宅「HOUSE H」が、第3回木質空間デザインコンテストで特別賞を受賞し、雑誌「新建築」に掲載されました。
作品：「HOUSE H」山代悟＋西澤高男＋ビルディングランドスケープ
掲載誌：「新建築」住宅特集2月号（新建築社）
WEB：http://www.japan-architect.co.jp/
WEB：http://kenplatz.nikkeibp.co.jp/

TOPICS

TOPICS

芸工大 * YOU

OPEN GALLERY

EXHIBITION REVIEW

活動報告：『I'm here. 2008』

1 『芋蔓式』ナガバサヨ（PICNICA+Enoma／仙台）

2 『山村スピーカー』実験跡地（ギャラリー絵遊／山形）

3 『星座や地図』西澤諭志（Ruupa／山形）

4 左：『Human Portrait』中田朝乃　右：『creature』土ヶ端大介（表参道画廊／東京）

アーティストたちの三都物語。

昨年4回目を迎えたアートショー『I'm here.』は、芸工大出身のクリエイターを紹介しています。2008年度は、仙台・山形・東京と、3都市7会場で開催しました。
夏に開催した仙台展『ピクニクス・ドローイング』（*1）は、軽やかなドローイングで注目の望月梨絵さんとナガバサヨさんが、ギャラリーに泊まり込み、自分のアトリエにお客さんを招く感覚で作品を展示。夏祭で盛り上がる仙台の街や、地元のアーティストとの出会いにインスピレーションを得た絵が、ギャラリーの壁に毎日ピンナップされていきました。
秋に開催した山形展『絶／景』では、一転してクールな作品をセレクト。アーティスト集団『実験跡地』は、山里でひっそりと倒壊していた廃屋をギャラリー空間に移築（*2）し、大都市の繁栄の一方で、過疎にあえぐ農村の実態をアートで告発しました。また、気鋭の写真家として活躍する西澤諭志さんは、雑多なモノに溢れたアパートの部屋を約200カットのアングルで撮影し、巨大な地図のように再構成した写真を発表（*3）しました。
そして、東京展『森の発生／森の腐敗』（*4）では、大学を卒業したばかりの中田朝乃さん、土ヶ端大介さん、古川紗帆さんが東京デビュー。山形で学んだ日本画や漆芸の高い技術を駆使し、自然界と人間界を融合させたクリーチャーを制作し、冬の表参道に、アートにおける新しい生態系を陳列しました。アートに向き合う日々のなかで、自然と作品に反映されていくそれぞれの街の情景。アーティストと街の関係性が顕著に顕われた『I'm here. 2008』でした。
2009年のI'm hereはこれまでと趣きを変えて開催予定です。ご期待ください。

CLICK HERE!

WEBでさらにg*gツウになろう

本誌g*gでご覧いただいた内容は、WEBでもご紹介しています。さらに、WEBならではのお楽しみもいっぱい。本誌ではご紹介しきれなかった作品やエピソードなどをプラスα編集。ご期待ください。また、読者のみなさんにご参加いただくコーナーへのお申し込み・お問い合わせ窓口にもなっています。下記のWEBサイトをクリック&チェックしてみてください。
WEB：http://gs.tuad.ac.jp/gg/

WELCOME TO TUAD

2009年のおすすめ展覧会

コリアン・アーティストが描く、ある写真館のクロニクル。

2009年秋の美術館大学構想企画展に招聘するのは、韓国を代表するアーティストで、梨花女子大学校教授のチョー・ドキュン氏（Cho Duck Hyun）。チョー氏は様々な背景を持つ古写真を、キャンバスにコンテで克明に模写する手法で国際的に知られる現代美術家です。山形でのプロジェクトは、鶴岡市にある明治6年の創業の写真館『寛明堂』に協力を仰ぐことになりました。
130年も前から山王神社のそばで、人々の記念写真を撮り続けてきた老舗・寛明堂のルーツは、かつて庄内藩の酒井家に仕えていた初代が、参勤交代時に江戸で写真の手ほどきを受け、大政奉還以後に市内に写真館を開いたのがはじまりだそうです。
既に2008年の秋に二度、鶴岡を訪問しているチョー氏は、5代目オーナーの加藤夫妻が大切に保管している、戦前・戦後のモノクロ写真を見せていただき、とても感激している様子でした。
そこには、江戸幕府の崩壊や、第2次世界大戦の影だけでなく「写真館」という職業の誕生や、市井の人々の生活文化の変遷、そして現在もつづく写真メディアの技術革新などが記録されています。
興味深い写真が沢山ありましたが、チョーさんは特に加藤家のアルバムに強く惹かれていました。誕生、思春期、結婚、独立、出産、老い、そして死まで、1冊のアルバムに人生の様々な場面が、荘厳な絵画のように記録されています。
「鶴岡という小さな街で、写真館を営んできたひとつの家族を描いていくことで、地域に限定されない〈時代の肖像〉を描きたい。つまり、この時代の写真は、土地や家族といったローカルなモチーフを写していながら、ユニバーサルな時代の変化を捉えています。これらは私たちすべての肖像（記録）写真でもあるのです……」
現在、チョー氏はこれらの写真をもとにソウルのアトリエで出品作を精力的に制作中。ご期待ください。
（※10月15日ー11月10日開催予定）

The Nora Collection 0804_3, 2008
©Cho Duck Hyun

加藤家のアルバムより（提供：寛明堂）

芸工大 * YOU

OPEN GALLERY

EVENT SCHEDULE WEB

在学生、卒業生の皆さんへ
東北芸術工科大学の広報誌「g*g」では、イベントなどの告知情報をお待ちしております。

4/1-9/2
熱闘！ 高校生パワーが世間を動かす

第16回全国高等学校デザイン選手権大会「デザセン」の応募登録の受付が4月1日から始まっています。同じ高校の友達や部活メンバーなど、3人で1チームを組んで参加ができます。皆さんからの応募登録をお待ちしています。
『デザセン』
応募登録期間：4月1日（水）－7月31日（金）
作品受付期間：7月1日（水）－9月2日（水）
詳しくは、デザセンの WEB で。
WEB：http://www.tuad.ac.jp/hidechamp/

4/5-25
大迫力の写真は東北の何を映し出したか

内藤教授とコニカミノルタ「フォト・プレミオ」に入賞した学生などによる写真展を開催。「東北」を撮影した写真群から「東北」を再発見し、「写真とは何か」を模索する大型写真群を是非ご覧ください。
『内藤正敏と学生による写真の饗宴「めくるめく写真の宇宙」』
会期：4月5日（日）－25日（土） 平日9：00－18：00
土曜10：00－16：00（日曜閉館）
会場：本館7F ギャラリー
ギャラリートーク：4月15日（水） 18：00－19：00

4/22-7/22
色で遊びながら親子で学んじゃおう

色水や絵具を使った造形遊びや、親子で体を動かすふれあい遊びなど親子で楽しめる内容を通じて、こども芸術大学を体験できるワークショップです。
『ワークショップ「私の子育て見つけよう」』
日時：4月22日（水）14：30－15：30／5月21日（木）10：30－11：30／5月31日（日） 11：00－12：00／6月18日（木） 10：30－11：30／7月22日（水）10：30－11：30
会場：こども芸術大学
対象：1歳～3歳の子どもとお母さん（山形市近郊にお住まいの方）
問合せ先：こども芸術大学 TEL 023-627-2280

4/20-25
陶芸2人の表現に何を感じ、何を思う

工芸コース陶芸専攻3年小野寺恵里さんと堀江遼子さんによる2人展。陶器・ドローイング・オブジェなどで、無数にあるハリネズミの針のように、彼女たちの突き出た欲求を表現しています。
『はりやま』
会期：4月20日（月）－25日（土） 9：00－20：30
（初日13：00－／最終日12：00まで）
会場：図書館2F ガレリアノルド

4/25-26
貝の歴史と文化に関心を寄せてみよう

東北地方における環境、生業、技術に関わる歴史と文化を探り、私たちのこれからの暮しを考えるシンポジウムを開催します。
『公開研究会「北の貝の道、南の貝の道－貝製品のシンボリズム」』
〈人類史に見る貝製品のシンボリズム〉
講師：安斎正人教授
〈先史時代の先島における海辺に暮らす人の文化〉
講師：江上幹幸（沖縄国際大学）
〈貝貿易をめぐる大和と琉球の交流〉
講師：高梨修（奄美市教育委員会）
日時：4月25日（土） 13：00－17：30／26日（日）9：30－15：30
会場：本館407教室（予定）
受講料：一般1,000円（2日通し）
※文部科学省 ORC 整備事業の一環です。
※4月26日は学食営業はありません。

4/29
トークの先にアートの未来が見えてくる

「芸術になにができるか」という本学の芸術運動のテーマを主題に、茂木健一郎氏をゲストにお招きし、宮島達男副学長とのトークライブを行います。また、同会場にて入試説明会も開催します。
『茂木健一郎＋宮島達男特別企画 トークライブ「アートが世界にできること。」』
日時：4月29日（水・祝） 14:00－15:30 入場無料
会場：せんだいメディアテーク
〈入試説明会〉 10:00－17:00

4/30-5/15
持続可能な……様々なアイデアとの遭遇

サスティナブルデザインアイデアコンペの一次通過作品13点の展示と、公開二次審査会を開催します。是非サスティナブルデザインについての幅広いアイデアをご覧ください。
『「サスティナブルデザインアイデアコンペ」二次審査展示』
会期：4月30日（木）－5月15日（金）
会場：本館1階ラウンジ
〈二次審査会〉 5月9日（土） 10：00－15：00

5/16
学生たちの将来に期待と安心を

在学生の保護者の方を対象とした特別講演と懇談会を開催します。講演会のテーマは、就職活動に関するテーマを設定。是非ご出席ください。
『保護者会懇談会』
日時：5月16日（土） 13：00－18：00
会場：東北芸術工科大学
内容：講演会「厳しい就職戦線に立ち向かうには」、学科別懇談会、懇親会、個別相談
講演講師：植松豊行教授
申込締切：5月8日（金）

5/18
幻想的な能楽世界へのいざない

『東北芸術工科大学伝統館薪能』
能「安達原」
シテ 観世銕之丞（2008年度 日本芸術院賞受賞）
狂言「居杭」
シテ 山本東次郎（1998年 紫綬褒章受章受賞）
日時：5月18日（月） 18：00－
会場：水上能楽堂「伝統館」
曲目：「安達原」他
問合せ・申込み：東文研

5/23-2/27
ビジネスに活かせる実践的ノウハウ学

最先端の事例を交え、企画発想法、コンセプトメイク、プロジェクトマネジメント等の推進法を実践的に磨きます。
『講義系公開講座 東北企画塾』（9回）
講師：平林千春教授、植松豊行教授、小山薫堂教授、田中範男教授、他第一線で活躍する経営者など
日時：2009年5月23日－2010年2月27日の第4土曜日 16：00－17：20
会場：東北芸術工科大学大学院仙台スクール
対象：一般の若手ビジネスマン 25名
受講料：お問合せください。

5/28-6/9
多くの人に見られて洗練されていく

グラフィックデザイン学科の学生たちが普段授業で取り組んでいる、ポスター、エディトリアル、広告など、課題作品を数多く展示します。
『Graphic Presentation』
会期：5月28日（木）－6月9日（火） 9：00－17：00（月曜休館）
会場：悠創館

5/31-8/2
芸工大生の暮らしと学びを擬似体験

2009年のオープンキャンパスを以下の日程で開催します。大学の授業を体験したり、在学生や教員と直接ふれあえる貴重な機会です。是非お越しください！
『オープンキャンパス 2009』
日時：5月31日（日）／8月1日（土）－2日（日）
10：30－16：00
会場：東北芸術工科大学キャンパス

6/3
大喝采で大歓迎、あの眼差し、あの妙技

初夏の恒例行事となった猿まわしが、今年も芸工大にやってきます。愛くるしいお猿さんの妙技をお見逃しなく。自然（動物）と人間の共生について考えます。
『THE 猿まわし』（1日2回公演）
日時：6月3日（水）（1部10：30－、2部18：00－）
会場：大学正面広場
出演：周防猿まわしの会
申込み：東文研

6/20-7/18
みんなに優しい暮らしをデザインしよう

身近な暮らしから、そして、山形という地域から、問題点を探りながら、省エネ、自然エネルギー、森林といったテーマで新しい暮らしのデザインを考えてみましょう。
『エコライフ実践講座』（3回）
〈地球にやさしい暮らしと住まいを考える？―省エネ、自然エネルギー、森林―〉
講師：三浦秀一准教授
日時：6月20日（土）／7月4日（土）／18日（土）
13：30－15：00
対象：一般 各回30名
受講料：各回1,000円
申込締切：開催日1週間前

6/20-7/18
あなたらしさを油彩で表現するために

油彩経験者対象。学生モデルを使って油彩制作をします。観察とマチエール（画肌）や色彩を大切にすることで、より自分らしい豊かな表現を模索します。
『油彩実技講座 人物を描く』（5回）
講師：木原正徳教授／大学院生 他
日時：6月20日－7月18日の土曜日 13：30－16：30
対象：一般 20名
受講料：20,000円
申込締切：6月1日（月）

6/24
広がる、深まる韓国との芸術交流の輪

韓国の宮廷音楽と舞踊を上演します。
『韓国芸術総合学校公演』
日時：6月24日（水） 18：00－
会場：水上能楽堂「伝統館」
出演：韓国芸術総合学校

8/1
間近で聞いて感じて、自ら打つ、感動体験

『和太鼓演奏 体験ワークショップ』
講師：川口幾太郎教授／吉田鮎子（和太鼓「太悳」）／郷津香乃（同）
対象：一般 20名
申込締切：7月15日（水）
〈はじめての和太鼓〉
和太鼓演奏を体験する初心者向けのワークショップ。見て、聞いて、打ってみることで和太鼓の音や動きの感性的な体験を目指します。
日時：8月1日（土） 10：30－12：00
受講料：一般2,000円／高校生以下1,000円（保険料別途徴収）
〈感性の和太鼓（指導者向け）〉
保育園、幼稚園、小・中・高校及び地域などで指導されている方を対象に行うワークショップ。和太鼓についての講義（道具の扱い方など）と実践を行います。
日時：8月1日（土） 14：00－17：00
受講料：5,000円（保険料は別途徴収）

8/1-8
気軽にはじめる、趣味の陶芸の第一歩

楽家初代長次郎が創始したと云われている「楽焼」を現代風にアレンジ。3日間で制作から焼成まで行います。
『短期陶芸講座（楽焼）』（3回）
講師：佐々木理一講師／鈴木誠副手
日時：8月1日（土）／2日（日）／8日（土） 14：00－17：00
対象：一般 16名
受講料：一般10,000円、中・高校生6,000円、小学生4,000円
申込締切：7月15日（水）

8/22-11/28
自作の食器で秋の食卓を飾ろう

「秋の食卓」をイメージして土鍋、土瓶、大鉢、大皿など、バリエーション豊かな食器を作ります。贅沢な秋の食卓を演出してみませんか。
『ろくろ中級編（秋の食卓を彩る器を作る）』（15回）
講師：後藤智絵（陶芸家／卒業生）／鈴木誠副手 他
日時：8月22日－11月28日の土曜日14：00－17：00
対象：一般 15名
受講料：48,000円（粘土代別途徴収）
申込締切：7月15日（水）

※公開講座に関しての詳細はエクステンション（TEL：023-627-2091）までお問い合わせください。